

自分の思いを伝え合うことができる児童の育成
～国語科「書くこと」の指導を中心にして～

I 研究の内容

1 研究目標

国語科の「書くこと」を中心にした活動において、自分の思いを伝え合う喜びを味わえる学習過程・指導方法を工夫することにより、伝え合う力を高める。

2 研究の内容

(1) 単元指導計画の工夫

- ①「伝え合う力」を育てる単元指導計画の見直し
- ②興味・関心をもたせる素材や活動の工夫
- ③検証授業及び一人一実践の取り組み
- ④特別支援教育についての学習

(2) 一単位時間の学習過程の工夫と改善

- ①目的意識・相手意識を高めるための工夫
- ②学習過程の工夫・伝え合う場の設定
- ③評価の観点の明確化と評価カードの工夫

(3) 望ましい学習集団の形成

- ①学習規律づくり
- ②学級活動・道徳の時間の充実

(4) 日常的な言語活動の充実

- ①挨拶・返事の励行 スピーチ活動 日記の習慣化 詩や名文等の暗唱 等
- ②読書活動の推進（朝読書の充実 意図的な読書指導の工夫 等）

3 授業実践

- 第3学年 「たから物をさがしに」～そうぞうをふくらませて書こう 日野原和貴
- 第5学年 「言葉の研究レポート」～仮名づかいのきまり～ 新海 直仁
- ひばり学級「目玉焼きを作ったことを文に書いて、先生たちに知らせよう」
中村しげみ

II 成果と課題

1 成果

- ・継続した取り組みは確実に子どもたちの書く力を向上させ、また、そこに「話す・聞く」を取り込んだことにより、子ども同士で高め合い、伝え合う努力をしていたことが感じられた。
- ・ちょっとしたことをアナウンスするのにも、子どもたちは原稿を必要としている。「書

- くこと」は自分の思いを自信をもって発信するための最大の手だての段階であった。
- ・書いてあることにより自信につながり、それが発表意欲にもつながっていった。考えをまとめるためにも、「書くこと」は必要だと感じた。
 - ・「伝え合う」を意識して、国語科「書くこと」を通して、書いたものをどうすればよいのかを考えていくことができた。
 - ・部会の研究に学ぶところが大きかった。
 - ・言語活動のみならず、集団行動を通しての共通した態度（聞くこと）にもこだわって、全校的な取り組みも効を奏していると思われる。
 - ・授業研究を早い時期に行ったことで、教師自信の実践化に意識向上が図れた。
 - ・異学年との交流があり、子どもたちはより意欲的に主体的に活動し、伝え合う力を高めることができた。
 - ・仲間とのかかわりは、特に成果があったと思う。学級集団・学習集団の大切さを感じた。
 - ・自分の思いを表現するだけでなく、友だちの意見と比較して表現できる子どもたちの姿があった。
 - ・具体的な日常の取り組みから、子どもたちが考えをもてたり表現できたりするようになってきたと思う。
 - ・挨拶の声や年度初めより、気持ちよく響くようになった。
 - ・読書活動は、どの学年も昨年より落ち着いて取り組めるようになった。

2 課題

- ・継続することは大切だが、「書くこと」は少し難しかった。
- ・「書くこと」を中心とすると、広がりが少ない。
- ・「書くこと」から「話すこと」にも広げ、スパイラルに伸ばしていけると効果が上がると思う。
- ・読書活動について（本の内容）徹底できなかった点を、来年に生かしたい。
- ・一部の子どもだけでなく、一人でも多くの子どもたちに成果を拡充してやりたい。とても良い考えや発想をもっている子どもにも、チャンスを与えられるような機会が必要かと思う。
- ・「各クラスの継続的な取り組み」については、情報交換があってもよかった。途中からでも「やってみようかな」と思えるヒントがもらえるかもしれない。
- ・一人一実践については、参観し合うことができなかった。

Ⅲ 成果物

- ・国語科学習指導案（授業研究）、ワークシート及び児童の作品
- ・略案（一人一実践）
- ・声のものさし、聞き方・話し方の約束

（研究主任 高野 栄子）